Ⅰ(2)基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐプロジェクトの実施
⑥疾患に対応した研究<がん>

H30年度評価　見込評価

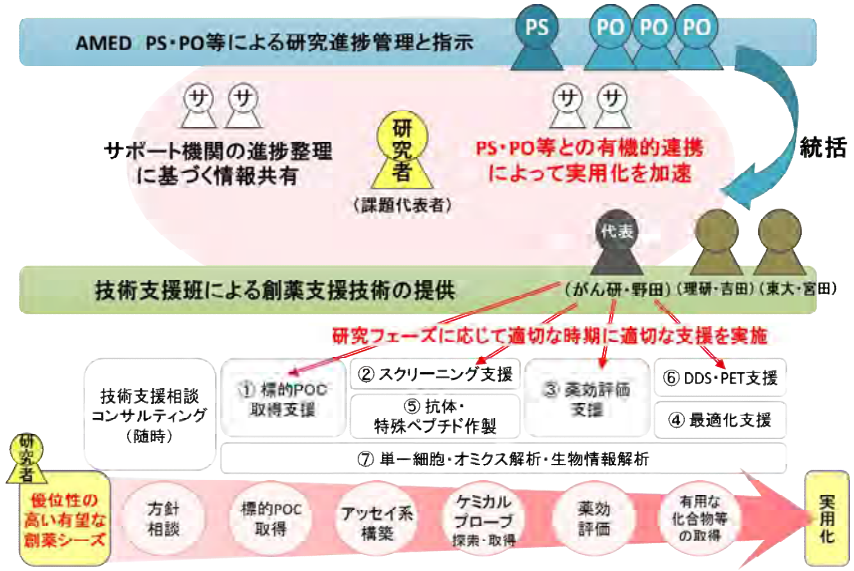
②-1 がんプロジェクトの一体運営と事業運用改善【②-2-2に再掲】

②-1-1 基礎研究から実用化までつなぐ一気通貫のマネジメント

ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクトでは次世代がん事業と革新がん事業にそれぞれサポート機関を設置し、PD/PS/POの指示の下、各事業の研究開発課題の進捗管理を補助し、開発方針等について適切な助言や支援を行う体制を構築している。基礎研究から実用化まで一元的なマネジメントの実現に向けて、両サポート機関が、研究倫理研修会の合同開催や、市民向け成果報告会およびPD/PS/PO会議での活動報告などを通じて、互いに連携を強化した。

■ 次世代がん事業サポート機関の機能

研究進捗の管理・技術支援班とのマッチング（下図）、ゲノム解析データの管理、知財コンサルテーション、研究倫理コンサルテーション 等



■ 革新がん事業サポート機関の機能

プロジェクトマネジメント、データマイニング、研究情報マッピング、知財コンサルテーション、研究倫理コンサルテーション 等 （下図）

Ⅰ(2)基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐプロジェクトの実施
⑥疾患に対応した研究<がん>

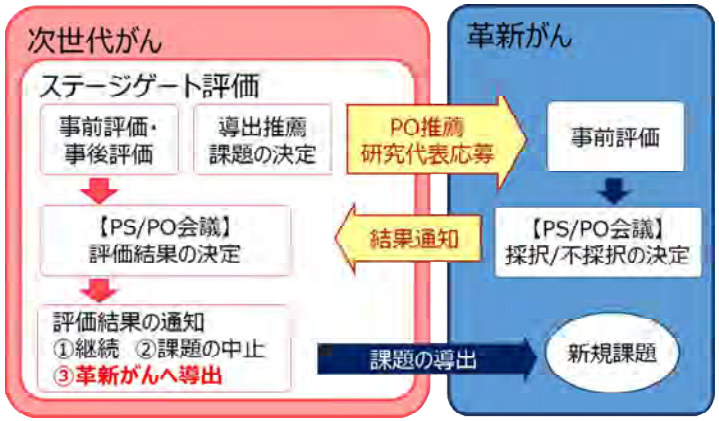
H30年度評価　見込評価

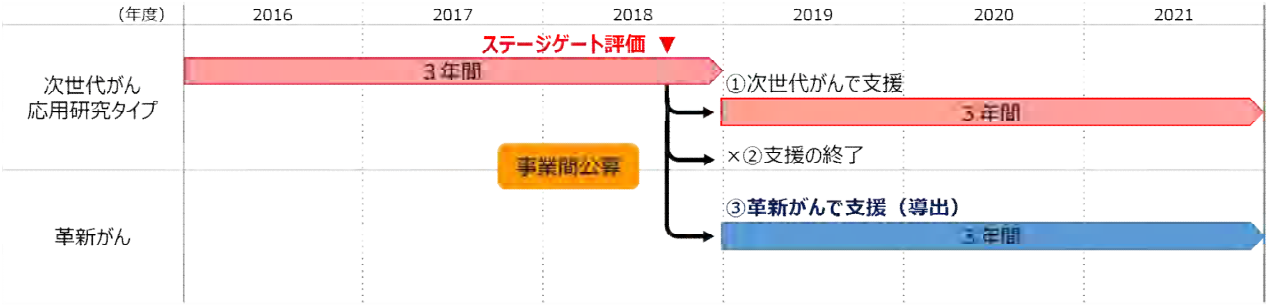
②-1 がんプロジェクトの一体運営と事業運用改善

②-1-2 AMEDのマネジメントにより省庁の枠を超えスムーズな研究開発課題の移行を実現【②-2-3に再掲】

次世代がん事業では、標的探索研究タイプの特に進捗の優れた課題に対してステージアップ評価を実施。 PS/POより推薦された課題を評価委員会で審査し、11課題が応用研究タイプに移行した。

また、応用研究タイプについてもステージゲート評価を実施し、進捗の優れた58課題を次のステージへ進めた。そのうち3課題については、次世代がん事業のPO推薦を受け、評価委員会の承認を得た上で、革新がん事業の評価委員会で審査、PS/PO会議を経て革新がん事業に導出し、AMEDのマネジメントによって省庁の枠を超えたスムーズな課題移行を実現した。（下図）





【③-2-2に再掲】

②-1-3 企業向け研究課題紹介リーフレット集の配布による研究成果の企業導出の促進

アカデミアシーズへの企業関係者の理解促進を図ることで研究成果の企業導出を促進するため、次世代がん事業と革新がん事業の研究課題を紹介するリーフレット集を初めて作成し、製薬協や臨薬協等からの案内を通じて登録した数十社の企業関係者に配布。配布先を対象とした事後アンケートを実施し、ニーズを把握することで今後の情報提供のあり方の参考とするとともに、リーフレット集配布の効果の調査を行い、企業側の高い関心を確認することができた。また、企業側の要望に応じて研究者との個別面談サポートなど提携を促す環境を提供しており、引き続きフォローアップを行っていく予定。

Ⅰ(2)基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐプロジェクトの実施
⑥疾患に対応した研究<がん>

H30年度評価　見込評価

②-2 がんプロジェクトの一体運営と事業運用改善

【②-1-1・②-1-4に一部再掲】

②-2-1 プロジェクトの一体的運用・がんゲノム医療実用化に対応する研究開発の推進と機構内外の連携促進

がん関連5事業が、PD/PS/PO会議を年4回合同開催するなど、基礎研究から産業界への出口も見据えた成果導出に向け、事業の枠を越えて連携を強化した。

また、がん研究の社会的意義について、がん患者を含めた市民の理解を得ることを目的に、市民向け成果発表会を年1回開催した。特にH30年度は初めてジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト全5事業（文科省、厚労省、経産省所管）による合同開催を実現し、PS/POなど有識者が案内する「ポスターツアー」など多彩な企画を実施。研究成果のポスター発表に加え、紹介コーナーも新たに設け、次世代がん・革新がん両事業のサポート機関が合同で一般市民に活動内容を紹介する取組なども行った。

ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト
市民向け成果報告会キャラクター

がんゲノム医療の実用化を後押しすべく、文科省、厚労省など関係省庁や、AMEDの難病研究課、基盤研究事業部、臨床研究・治験基盤事業部など、機構内外を巻き込んだAMED省庁連絡会議の立ち上げと運用を、がん研究課が中心となって行い、がんゲノム医療実装に向けたタイムラインや課題の共有、役割分担の明確化などを行った。

また、H29年度には、がんゲノム情報をもとに行う医師主導治験の共通プロトコル、共通方針の策定・整備を行う研究や、がんクリニカルシーケンスを運営、管理できるメディカルディレクター、クリニカルシークエンスチームの多職種専門家を育成する研究を推進した。（左図）

H30年4月から、がんゲノム医療中核拠点病院において、がん関連遺伝子パネル検査が実施され、がんの治療方針決定において詳細なゲノム情報を活用できるようになったことを受けて、H30年度には、がん関連遺伝子パネル検査等による遺伝子検査結果に基づき投与患者を特定する新規抗悪性腫瘍薬の開発および既存抗悪性腫瘍薬の適応拡大等を目指した医師主導治験の公募を実施して4課題採択し、パネル検査結果に基づく治療選択肢の拡大を通じ個別化医療の実現に取組んだ。

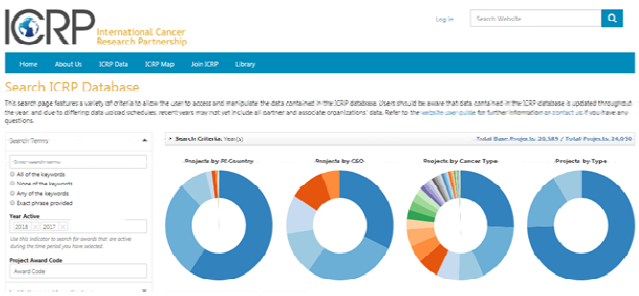
Ⅰ(2)基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐプロジェクトの実施
⑥疾患に対応した研究<がん>

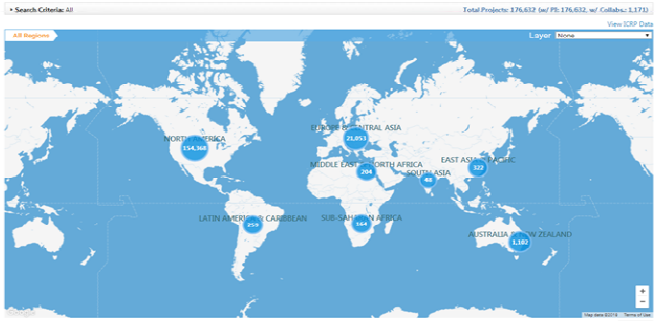
H30年度評価　見込評価

③-1 国際連携、異分野等の人的交流、人材育成

③-1-1 がん研究配分機関の国際アライアンスICRPに正式メンバーとして加盟 【③-2-1に再掲】

ICRP（International Cancer Research Partnership）は、米国NCI（National Cancer Institute）主導で2000年に設立されたがん研究費配分機関の多国間の協力組織である。ICRPが構築した世界最大規模のがん研究費配分データベースを活用し、がん研究分野の世界的動向をいち早く把握・俯瞰し、AMEDとして公募策定等の戦略立案に役立てるため、平成31年2月ICRPに正式メンバーとして加盟した。





③-1-2 がん早期診断バイオマーカー開発のための日米研究協力体制の構築 【③-2-1に再掲】

がん早期診断バイオマーカーの研究成果について平成31年3月に米国内でNCIと合同でワークショップを開催し、わが国の主要バイオバンクへのアンケートから保存検体について取りまとめた結果を会議で発表し、日米の研究協力体制の構築に向けて、今後のシーズ交換実施に関する意見交換を行った。

③-1-3 異分野交流をテーマにした若手ワークショップの開催 【③-2-3に再掲】

若手研究者育成の一環として、次世代がん事業、革新がん事業及び、脳とこころの健康大国実現プロジェクトの戦略的国際脳科学研究推進プログラムに参加する若手研究者を対象に、異分野交流をテーマにした、第４回AMEDがん若手研究者ワークショップを開催し、事業やプロジェクトの枠を超えて、若手研究者同士や、若手研究者と経験豊かな研究者との交流を促進した。

③-1-4 国際的に活躍できる若手研究者の育成 【③-2-3に再掲】

国際的に活躍できる若手人材の育成を図るため、書面審査により選抜された若手研究者を海外学会等へ派遣するとともに、平成30年度からは新たに海外研修支援プロジェクトを立ち上げ、書面審査により選抜された若手研究者2名を海外研究機関での短期研修に派遣した。